

2023 年度 第 3 回災害支援委員会・次第

日時：令和 5 年 12 月 11 日（月）19 時 30 分～21:00

参加者：長坂・狩野・番場・篠原・高橋・福永・小須田・永尾・中島

報告事項

1. 日本協会関連

○11 月 11 日開催・関東甲信越ブロック災害対策連絡会：長坂さん

①講演「北海道支部における災害支援への取り組み」（胆振東部地震）

停電でパソコンが使えず、携帯の電話もつながらないため、安否確認に苦労した。

災害時には有線の固定電話が強かった。

被災地域の支援者情報共有会議に支部として参加し、他の職能団体と連携しながら支援。

被災直後は土砂の除去など力仕事为主。その後、被災地の役場から依頼を受け、被災者宅への訪問活動を行い精神保健福祉士の専門性を発揮しての活動となった。

北海道は広いので、地域の会員同士がどのように連絡取り合い支援活動を行うかが、今後の課題。

②意見交換

- ・被災時に会員同士の連絡方法、安否確認、情報収集の方法は何がいいのか。

情報共有ツールとして群馬県は LINE のオープンチャット、栃木は Google フォーム利用と様々。

- ・災害に対する関心が薄れている。会員の関心を高めて関心を向けてもらうにはどうしたらいいか。

災害支援委員会のある支部（県協会）が少なく、平時の活動を活性化していくことが課題。

- ・全国の ML に発信するのは敷居が高い。ブロック内 ML から発信に慣れていき、全国 ML へも情報発信を出来るようにしていきたい。

2. DWAT 関連

○10 月以降の活動報告：各参加者より

長坂さん：10/5 障害者支援研究会に参加。

10/27 群馬県車中泊避難体験会（藤岡危機管理センター／参加者は市町村災害担当職員）

国は車中泊をエコノミークラス症候群のリスク回避で推奨していないが、車中泊避難を選ぶ人は今後増えて行く予測。その為に対策・準備は責務。

グループワークでも車中避難のデメリットよりもメリットが多く出た。

災害担当職員でも「被災時に車中泊避難を選ぶかも」の意見が多かった。

河川氾濫による水害リスクの高い邑楽町・大泉町は車中泊避難者へのマニュアル作り準備をしている。

行政職員も避難所支援に入るであろう専門職団体も車中泊避難者への支援ノウハウを取得しておく必要性が高いと思われた。

千田さん：10/23 渋川地域の福祉避難所モデル訓練に参加。

3. 各事業の進捗について

○MHSW 首都圏災害ネット研修：担当（小淵さん・小須田さん）

助成金の申請は済んでいる。日程・講師（群馬支部の篠原さん）が決まり、チラシを作成中。

○士業団体による「被災者等相談支援に関する協定」について：担当（番場さん・福永さん）

9/26 の会議に福永さんが参加。

年度が代わり担当者の半分以上が交代したため、会のあり方について再度話し合い。

- ・協定書を今年度中に締結したい ⇒ 各会で持ち帰り、確認することとなった。
- ・次回の予定は決まっていないが、恐らく協定書にサインをする。
- ・MHSW 会は協定書にサインをする予定。社会福祉士会・医療ソーシャルワーカー協会は検討中か。
- ・今後の責任者は1名（各会の連絡先を1カ所にする。参加人数は会議毎に確認）
⇒責任者は番場さん。番場さんが参加できない場合は福永さん、林さんの参加を考える。

4. 検討事項

○SW 連盟・災害担当者会議に関して（当委員会との位置付けなど）

10/31 に第1回担当者会議が行われ、番場さん・福永さんが参加。とりまとめは社会福祉士会。

- ・顔合わせ。
- ・各協会でのどのような動きをしているか、情報共有。
- ・SW 連盟の一部としてどのように活動していくのか。
⇒（連盟の部会としてある程度独自の決定・活動を行うはずだが）各会で持ち帰って検討することになった。
- ・次回は2～3月に行う予定。

検討内容

- ・情報共有であれば他の機会に可能。
- ・3団体が集まるからこそできることをしないと作るメリットがない。
- ・SW 連盟の中でこういった位置づけでどのような取り組みをしていくのか。
- ・SW として災害時にどういう活動を行うのか。SW3 団体がどう連携して支援を行うか。
- ・活動のマニュアル化・システム作り。
- ・DWAT との棲み分け（各団体とも課題と考えている）
⇒DWAT は避難所の支援。

SW 連盟は病院との関係で強みを生かせる。受診同行・服薬管理などの支援。

避難所に行けない人の支援を行政と連携しながら行う、訪問型支援。

- ・平時の活動としては、研修の企画。会員に感心を示してもらうために魅力のある研修を行う。
SW デーのように持ち回りで、各団体の得意分野を活かした研修企画をしていく。
- ・新年度以降の取り組みを、今年度に決めていきたい。
- ・連盟の災害支援担当委員と代表者会議の連絡方法については、検討が必要。
⇒狩野さんが明日の代表者会議で提案・確認。

- LINE のオープンチャット活用状況等について
19名登録。9月の委員会時から4名増えている。
今後も県士会からの郵送や定例会で地道にアナウンスして少しずつでも増やしていく。

- その他
 - ・高橋さんより 職場が変わる予定。西毛地区の引き継ぎを桐の木クリニック本田さんをお願いすることを考えている。
本田さんに3月の委員会に参加していただく。
日本協会の災害対策委員は継続可能か？
(日本協会の災害対策委員について)
 - ・県協会に所属している必要はなく、支部構成員である事が条件。
今後、県協会には入っていない日本協会構成員が日本協会の災害対策委員となり連絡会議に参加することになった場合は、支部役員（理事）に情報を共有してもらおう。
情報共有が煩雑になってしまうので、県協会の災害支援委員を兼務している災害対策委員も参加して複数人で参加する。交通費支給は、委員会予算からの支出なので兼務の対策委員のみ支給。

 - ・教育研修員会で実習指導担当者のアンケートを実施している。ご協力ください。12/22 締切。
 - ・3月の理事会までに活動報告と次年度の活動計画を作成。次回の委員会に長坂が叩き台を提出して委員会でブラッシュアップする。

次回 : 2023年度 第4回災害支援委員会 2024年 3月 7日(木) 19:30～ Zoom

* 毎回月曜日に開催していたが、月曜日だと林会長が出席困難な為に月曜日開催は辞めた。